

周波数ひっ迫対策技術試験事務 令和2年度事前評価結果

案件名	実施予定期	評価会での主なコメント	評価点
X帯沿岸監視用レーダー等の高度化のための技術的条件に関する調査検討	R2-R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・X帯を用いた沿岸監視用レーダーの高度化のための技術的条件を調査検討することは、周波数ひっ迫への対策及び共用技術検討を行うために必要であり、特に沿岸監視用レーダーは、特定の物理的位置において、選択できる周波数帯域が限定される場合もあると思われ、本技術試験事務を行うことは妥当である。</li> <li>・X帯沿岸監視用レーダー等の使用周波数帯を拡張し、高度化するための技術試験事務であり、今後設置数の増加が見込まれている沿岸監視用レーダーの周波数ひっ迫の解消に繋がることが期待できる。</li> <li>・X帯レーダーはかなり高度化されており、可能な技術範囲でデュアルユースとして周波数を変更して使用できるのではないかと考えられる。</li> </ul>	3.8
900MHz帯を使用する新たな無線システムの導入に係る調査検討	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルMCAシステムの移行に伴い、900MHz帯という使い勝手の良い貴重なプラチナバンドに空きが生じることを踏まえて、この帯域を早期に実用化を図るための技術的条件を検討することは重要である。</li> <li>・20MHzの空きが生じる900MHz帯に複数の無線システムを導入するにあたり必要な技術的条件について調査検討する技術試験事務であり、周波数の有効利用の促進が期待できる。</li> <li>・利用の加速のために、提案の条件等工夫が必要と思われる。</li> </ul>	3.6
5.9GHz帯V2X用通信システムに関する技術的検討	R2-R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5.9GHz帯DSRC及びC-V2Xの導入に向けた課題の明確化と、5.9GHz帯V2X通信システムの導入に向けた検討は、国際的なV2Xで取り組まれている周波数利用の活用・共用を図るため必要不可欠であり、本技術試験事務を行うことは極めて妥当である。</li> <li>・課題の掘り下げも良く行われており、実証実験を通したV2X用通信システムの技術的条件・共用条件の明確化は周波数ひっ迫を解消するために必要不可欠なものであると考える。</li> </ul>	4.3
特定無線設備の放射測定における試験方法等に関する調査検討	R2-R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の測定器等に依拠しない公正中立な放射測定の試験方法等を検討し、実用性の高い効率的なOTA試験方法を確立することを目指しており、必要性が高く、本技術試験事務を行うことは極めて妥当である。</li> <li>・OTAによる無線設備評価の必要性、および、その測定環境・設定の詳細条件の明確化、は、重要な課題であり、公費を投じて検討するに値するものであると判断できる。</li> <li>・内蔵アンテナ機器が増加している状況であり、本試験事務の必要性は高い。但し、多くの技術がEMC、EMI測定と共通と考えられるので、十分に調査の上、効率的に進めていただきたい。</li> </ul>	4.2
良好な電波環境維持のための設置場所測定方法の調査検討	R2-R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高周波利用の設備の大型化により、これらの装置が放射する電波の、異なる設置場所における放射強度、並びにスプリアス電波放射を把握することは、重要でタイムリーであり、本技術試験事務を行うことは妥当である。</li> <li>・検討の結果として有意な答えが得られるのか、結局ケースバイケースの対応が必要であり普遍的な答えが得られないのでは、という懸念がある。しかしながら、チャレンジは必要な案件であると思われる。</li> <li>・今後IoT等の無線通信の開発・普及が進み、増加することが予測される高周波利用設備の電波漏洩を適切に防ぎ無線通信と両立する環境の構築が期待できる。</li> </ul>	3.3
BS放送用周波数の効率的な利用に関する調査検討	R2-R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12GHz帯BS放送(右旋帯域)における新規番組の開局ニーズや、2K放送から4K放送へのサービス高度化の要求に対処するために、2K放送信号圧縮の検討と4K信号との共存は、国際競争力の観点でも重要かつ喫緊の課題であり、2K放送帯域の削減量と4K放送帯域確保の可能性について調査検討することは重要であり、本技術試験事務を行うことは妥当である。</li> <li>・本技術試験事務は、12GHz帯BS放送(右旋帯域)における新規番組の開局ニーズや2K放送から4K放送へのサービス高度化の要求に対処すべく、周波数有効技術の技術導入に向けた検討を行うものであり、総合的に有益であると考えられる。</li> <li>・従来のBS2K受像機では新2K放送は受信できなくなるので、移行スケジュール、移行時期も含めた慎重な検討が必要と考える。</li> </ul>	3.6
地域課題解決型のローカル5G等実現に向けた技術的検討	R2-R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5G等の高度な無線通信システムを用いて、地方における少子高齢化や労働人口の減少等に起因する様々な地域課題を解決できるよう、遠隔医療や建設機械の制御、サテライトオフィス等の実現に向けて、技術的な調査検討を行う緊急性・必要性は理解できる。</li> <li>・ローカル5Gや5Gの拡張の実現に向けて実施する技術試験であり、最新の5G等の標準化に対応して多様な環境でのつながりやすく切れにくい無線ネットワークの構築に貢献することが期待できる。</li> <li>・ローカル5G及び5Gの拡張については重要度は十分理解できるものの、本案件の検討が不十分である。しかしながら、5Gに関する検討は待ったなしと考えられ、「走りながら考える」という方法も選択肢の一つには成り得ると考えられる。</li> </ul>	3.0